

図書紹介

渡部悦和、井上武、佐々木孝博 著
『ロシア・ウクライナ戦争と日本の防衛』

佐藤 正 陸自78

ロシア・ウクライナ戦争を扱った本は、すでに数冊が書店に並んでいますが、本書は最も早い時期に出版された本の一つで、5月初旬までの情勢に基づき、鼎談形式で記述しています。

著者の3人は、『偕行』ではおなじみのメンバーで、渡部氏（陸自78）は安全保障全般、特に米国と中国情勢、井上氏（陸自78）は欧州情勢と兵器全般、佐々木氏（海自86）はロシア情勢とサイバー等について造詣が深く、陸・海自衛官としての枢要な職務で実務を積んで来られました。

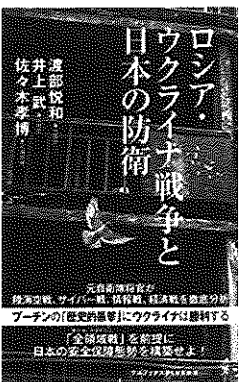
これらを背景に、ロシア・ウクライナ戦争の発生、開戦前の状況、2月24日から5月初旬までの戦況、これからの世界の展望等について、陸・海・空戦、宇宙戦、サイバー戦、電磁波戦のみならず、情報、認知、心理、経済、外交、エネルギー、法律等のすべての領域、つまりオール・ドメインの視点で縦横無尽に語り合います。

会話形式のため、内容が分かりや

すく、また具体的に説得力に富み、読み進めるうちに思わず3人の会話の中に引きずり込まれるような錯覚を覚えます。

この戦争は、プーチン大統領の暴挙であり、5月上旬までの戦況では、ロシアは初期作戦で失敗し、情報戦でも敗北していると分析します。対するウクライナは近代兵器で戦い、SNSの活用でも相手を凌駕していることなどが実例をもつて紹介されます。

最後に強調されるのが、この戦争で日本が学ぶべき教訓です。ウクライナ人の国を守る覚悟、サイバーやUAVで軍民一体となった戦い方など、多くの教訓があります。オール・ドメイン戦を前提とした安全保障体制の構築こそ急務だと訴えます。本書を一読し、オール・ドメイン戦の観点で台湾有事についても思いを巡らせていただければと思います。



ワニブックス 1000円(税別)